

日付 Date	2013/3/20
対象 Subject	神奈川県真鶴町
作成者 Name	山崎晃弘

「景観まちづくりフレームワーク」 ワークシート  
LFC-Landscape and Community Framework Work Sheet

人工 Artificial

自然-人工(混合) Nature-Artifacts mixed

自然 Natural


快 Pleasant

背戸道と道祖神



美の基準の項目が多数含まれる景観。小松石蹴込の階段と自然との調和が町の特徴をかもし出す。道祖神は11箇所のひとつ。

神谷邸前の背戸道



自然の地形を活かしつつ、地元産の小松石を使用した石垣の土留（擁壁）は、背戸道をより一層引き立たせている。


背戸道1



町の景観をつなぐ役割の背戸道がこのように緑の自然と融合していると、訪れる者のこころが癒される。


快-不快(混合)  
中立的  
Pleasantness-  
Unpleasantness mixed  
Neutral

町立まなづる小学校・体育館



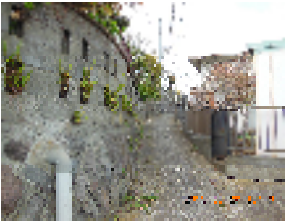
校舎の色調は緑色系で違和感があるが、こちらは色彩調和され、外壁材（ドイツ下見板風）の質感も町になじむ。

コミュニティ真鶴



地形を活かした建物は町と設計者の趣旨がよく表れている。小松石を多用した外壁と魚を模した屋根形状に注目したい。

背戸道2



背戸道はすばらしいが、自然物との調和がないとやはり硬い印象となり、町をつなぐ役割としては工夫が必要となってくる。


不快 Unpleasant

とある戸建



形態と色合ともに町になじまない景観となっている。美の条例の施行前とはいえ、少し配慮がほしかった。

沿道の階段



町のいたるところにある坂道と階段——特に住宅専用階段には手すりの形態や色彩に配慮が必要と思われる。

key-plan

A	B	C
D	E	F
G	H	I

「景観まちづくりフレームワーク」 ワークシート  
LFC-Landscape and Community Framework Work Sheet

日付 Date	2013. 3. 20
対象 Subject	真鶴



快 Pleasant

ピンクの家  
景観計画届け出第1号

高台の斜面に建つ家で、不思議と風景にマッチしている。イタリアのコモの別荘を連想した。

石工先祖の碑

可愛らしいお地蔵さん2体と石碑で、町の歴史を感じさせ、階段の上へ人を招いている。

ピンクの家から見た風景  
真鶴港

入江と街並みがうまくマッチしている。電柱と屋根の色と形状がまちまちなのが残念。

快-不快(混合)  
中立的  
Pleasantness-  
Unpleasantness mixed  
Neutral

洋風の家

昔ながらの街並みに突然現れる洋風の家。家自体のデザインは良いが、周りの雰囲気とミスマッチ

背戸道の家

外側の石垣に植栽を施し歩く人への配慮が感じられる。家も昔ながらの日本家で雰囲気に合致

駐車場と海の見える風景

なぜか駐車場が風景を台無しにする。

不快 Unpleasant

真鶴駅前国道沿い風景

毒々しい広告と電柱。日本の典型的道路沿い風景

普通の街並み

セットバック、植栽等を行っているが、まだ統一感のある街並みにはなっていない。

岩大橋  
前の浜に架かる橋

テトラポットと岩で海岸風景が台無し。橋自体も風景にそぐわない。